

# 事業仕分けを実施しました

市では、さらなる行財政改革を推進するため、また、市が実施している先駆的な事業を市民の皆様に説明することを目的として、大田原市版事業仕分けを10月30日(土)、南別館2階会議室と東別館2階会議室で実施しました。

当日は、事業仕分け実施委員10人(識見を有する者6人、公募市民4人)が2班に分かれて、21事業について仕分けを行いました。

その結果、16事業が「市が改善して事業を行うべき」、3事業が「不要(廃止)」、2事業が「市が現行どおり事業を行うべき」と評価されました。市外も含め約200名の傍聴者があり、事業仕分けに対する関心の高さがうかがわれました。

なお、事業仕分けの結果は、市の最終判断ではありません。市は、この結果を参考にそれぞれの事業の今後のあり方を検討し、平成23年度以降の予算編成に反映するよう取り組んでまいります。

市の方針については、今後、広報おおたわらおよび市のホームページで市民の皆様にお知らせします。

## 問い合わせ

政策推進課政策推進担当

TEL (776) 13009

http://www.city.ohkawara.

tochigi.jp



説明を聴く仕分け実施委員(第1会場)



質問する仕分け実施委員(第2会場)

## 【事業仕分け結果一覧(その1)】

事業番号	事業名 [所管課]	事業内容	仕分け結果			
			不要	民間	市 (要改善)	市 (現行どおり)
1-1	王将戦開催事業 [政策推進課]	王将戦および関連事業(前夜祭、大盤解説など)を開催	1	1	③	0
1-2	市営バス運行事業 [総務課]	市営バスの運行(15路線)	0	0	⑤	0
1-3	市道整備事業 [道路建設課]	安全・安心で快適な道路環境を提供(改良工事、舗装工事など)	0	0	⑤	0
1-4	若杉山荘管理運営事業 [農林整備課]	若杉山荘(都市と農村の交流施設)の維持管理	1	1	③	0
1-5	記念樹の森整備事業 [農林整備課]	“思い出の丘”を目指した、市民が憩える広がりのある施設の整備	④	0	1	0
1-6	公園維持管理事業 [都市計画課]	市民に安全で快適な憩いの場を提供	0	0	⑤	0
1-7	英語指導助手(ALT)設置事業 [学校教育課]	担任・教科担任とチームを組んで、より実践的な授業を実施	0	0	③	2
1-8	英語活動指導員配置事業 [学校教育課]	小学校において学級担任と協力して英語(外国語)活動を実施	0	0	2	③
1-9	少人数指導非常勤講師配置事業(算数・数学) [学校教育課]	担任・教科担任と非常勤講師が協力しチームを組んで授業を実施	0	0	2	③
1-10	配慮児童生徒支援非常勤講師配置事業 [学校教育課]	担任と非常勤講師が協力しチームを組んで学習・生活指導を実施	0	0	③	2
2-1	お笑い健康づくり事業 [企画政策課]	お笑い講座、お笑い健康ライブ、お笑いライブスペシャルの実施	1	0	④	0
2-2	青少年交流事業(海外派遣事業) [生涯学習課]	中学生を米国ウエストコビナ市、高校生を英国スコットランドに派遣	0	0	⑤	0

【事業仕分け結果一覧(その2)】

事業番号	事業名 [所管課]	事業内容	仕分け結果			
			不要	民間	市 (要改善)	市 (現行どおり)
2-3	大田原マラソン大会実施事業 [スポーツ振興課]	県内唯一の日本陸連公認コースでのマラソン大会の実施	0	0	⑤	0
2-3	車いすマラソン大会実施事業 [スポーツ振興課]	障害を持つ方にスポーツを楽しむ機会を提供	④	0	1	0
2-4	道路維持補修事業 [維持管理課]	安全で快適な生活と経済活動を確保するための市道の維持修繕	0	0	③	2
2-5	高齢者等外出支援事業 [高齢いきがい課]	ひとり暮らし高齢者などに対する居宅と医療機関などとの間の送迎	0	0	③	2
2-6	勤労者住宅建設資金貸付事業 [商工観光課]	住宅を取得しようとする勤労者に対する資金融資	④	1	0	0
2-7	子育て支援券事業 [商工観光課]	子育て支援券使用による商工業振興と子育て支援	0	0	⑤	0
2-8	那須野が原国際彫刻シンポジウム開催事業 [文化振興課]	国内外の彫刻家による公開制作や交流イベントの開催、作品の設置	2	0	③	0
2-9	与一伝承館管理運営事業 [文化振興課]	観光施設および文化教育施設である那須与一伝承館の管理運営	0	0	④	1
2-10	大田原市文学サロン開催事業 [政策推進課]	日本ペンクラブ会員(作家など)による講演会の開催	0	0	⑤	0

※ 各事業の○で囲んだ数字が、その事業の最多得票となった仕分け結果です。

※ 仕分け結果の「市(要改善)」における仕分け実施委員の主なコメント

- ・参加者を増やす工夫をすること。
- ・事業内容や事業規模の縮小を検討すべきである。
- ・国や県へ要望すべきである。(予算、人員など)
- ・より一層予算の配慮をしてはどうか。
- ・更なる充実をしてほしい。
- ・経費の見直しをしてはどうか。
- ・事業の内容を精査し、一層効率的な運営を望む。
- ・幅広い年齢を対象とした内容にしてほしい。

2010年大田原市文学サロン  
「時を楽しみ時を駆ける」現代から幕末へ」

2002年に「第18回『平和の日』那須の集い」が本市で開催されて以来、毎年恒例となった大田原市文学サロン。今年も、作家の落合恵子(おちあいけいこ)氏、植松三十里(つえまつみどり)氏、作家であり、日本ペンクラブ常務理事でもある高橋千劔破(たかはしちはや)氏を迎え、10月23日(土)、総合文化会館ホールで「時を楽しみ 時を駆ける」現代から幕末へ」をテーマに開催され、市民など約400人が参加しました。

第1部は、宇都宮市出身で作家やコメンテーターとして活躍する落合恵子氏が「加齢の醍醐味」と題し、母親と過ごした幼少時代から看取(みと)るまでのエピソードを披露しました。

未婚の母を選び、女手一つで頑張ってきた母親は4年前に亡くなりましたが、落合氏は仕事をしながら7年にも及ぶ在宅介護を続けてこられたそうです。介護では頑張りすぎて閉塞



しないことが大事。どうしようもないときは「もう駄目、助けて」と自分の弱さをさらけ出せる強さも必要だと語り、「お年寄り子どもをキーワードに、一人ひとりの子どもが生まれてきてよかった、また、お年寄りが長生きしてよかったと思えるような社会を作らなければならない」と訴えました。

第2部では、歴史時代小説家の植松三十里氏と、この日司会も務めた高橋千劔破氏が、NHK大河ドラマなどで話題沸騰の坂本龍馬とその妻お龍を中心に、幕末を駆け抜けた人物たちの実像と虚像について対談しました。時に笑いを誘うなど、訪れた方々はお二人の軽妙な対談に聞き入っていました。



植松三十里氏(右)と高橋千劔破氏による対談

■問い合わせ

政策推進課総合企画担当

TEL (23) 1309